研究課題別中間評価結果

１．研究課題名：　社会脳科学と自然言語処理による社会的態度とストレスの予測

２．研究代表者：　春野　雅彦　（情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター　研究マネージャー）

３．中間評価結果

　サイバー・フィジカル空間で、社会格差、攻撃行動などに関与する脳のメカニズムを明らかにする研究は、極めて重要な研究であるがほとんど解明されていない。本研究は、この課題に挑戦し、これまでに、SNS（ソーシャルネットワークサービス）などの利用者に起きる、相手との接し方やストレスなどの精神的・心的な変化の特性・メカニズムを明らかにした。SNS データ、行動課題データ、パーソナリティテストデータ、及び脳データなどのマルチモーダルなデータ解析を行い、2 つの興味深い成果をあげた。まず、経済格差に対する脳活動（扁桃体）パターンから、格差がヒトの精神状態に多大な影響を及ぼし将来のうつ病傾向を予測できることを示し、Nature Human Behaviour 誌に発表した。この研究内容は Scientific American の Web サイトでも 1 ヶ月間取り上げられるなど世界的にも注目された。次に、「いじめなどの攻撃行動への加担は共感性の欠如により起こる」という仮説が定説であったが、新たな課題を設計・計測した結果、社会的な不安が高い人が攻撃行動に加担し、関係する神経基盤として扁桃体が重要であることを示した。今後、データベースを拡充して、国際的な展開や事業への展開に期待したい。